

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	指定通所支援 ぼほらす		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月22日	～	令和8年 1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 91件	(回答者数)	73件
○従業者評価実施期間	令和7年 12月22日	～	令和8年 1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育をメインに行っていることで、個々のニーズや特性に合わせたサポートができる	・毎回、療育後に振り返りの時間を設け、保護者さまに活動内容をお伝えしている。また保護者さまからも家庭や学校での様子をお聞きし、情報共有を図ることで療育に反映している。	・療育後の振り返りの時間だけで、お子さまについての情報共有が難しい場合は、別の時間で保護者さまと面談を設定する ・保護者の送迎がないお子さまに対して、保護者さまと情報共有の機会を確保する
2	医療、関係機関との連携	・母体が小児科のため、医療連携が取りやすく、必要に応じてスムーズに検査を受けることができる ・不登校のお子さまは全て、また必要性があるお子さまの学校連携を行っている	・様々な発達検査に対して、スタッフが知識を深めることで、検査結果を支援に反映できるようにしていく ・学校連携の際、先生方との情報共有の時間の確保を工夫していく
3	資質向上のための定期的な研修	・法人内で偶数月に1回、様々なテーマで資質向上委員会が主催する研修会に参加している ・事業所内においても、研修での知識を深めるために事例検討やオンラインの研修を受講するなどの勉強会を行っている	・積極的にオンライン研修に参加したり、外部講師を招いての研修も取り入れていきたい

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流が少ない	お子さまの特性、また人員不足もあり施設内での療育が多く、外部との関わりが少ないこと	イベントなどで、おでかけの機会を増やしていく。また、外部の方をお招きしての活動を取り入れていく
2	設備・環境面	個別療育の際は問題ないが、イベントなど集団での活動の際、広いスペースの確保が難しい	・スペースを有効に使い、楽しむことができるプログラムを工夫していく ・休日のイベントでは、小児科の駐車場を利用した安全教室を開催した
3	情報共有が充分とはいえない	個別療育メインのため利用者数は多いが、スタッフ全員が全てのお子さまの情報共有が充分できているとはいえない	・日々のミーティングの際に情報共有に対しての時間を、確保していく ・スタッフ間でのコミュニケーションを円滑にし、意識向上をはかる